

野菜畑作生産情報 第1号

平成31年4月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎ 小麦の幼穂形成期は平年より2～5日遅れているので適切な追肥で生育量と品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は、地域によってバラツキがあるもののおおむね平年並である。適期追肥と春腐病等の防除を徹底しよう！

畑作物

1 消雪及び根雪の状況

- (1) 黒石市の消雪日は4月5日で平年に比べて14日遅く、根雪期間は120日間で22日長かった。
- (2) 六戸町の消雪日は3月5日で平年に比べて9日早く、根雪期間は89日間で10日長かった。

表－1 消雪及び根雪の状況

場 所	年次	初日	終日	消雪日	根雪期間
農林総合研究所 (黒石市)	本年	12/6	4/4	4/5	120日
	(平年差)	(早8日)	(遅14日)	(遅14日)	(長22日)
	平年	12/14	3/21	3/22	98日
	前年	12/6	3/15	3/16	100日
野菜研究所 (六戸町)	本年	12/6	3/4	3/5	89日
	(平年差)	(早19日)	(早9日)	(早9日)	(長10日)
	平年	12/25	3/13	3/14	79日
	前年	1/22	3/12	3/13	50日

注) 平年値は、農林総合研究所が平成13年～30年の13か年、野菜研究所が昭和55年度～平成21年度の30か年。

2 小 麦

(1) 生育状況 (4月10日現在)

- ア 生育は六戸町とつがる市の「ネバリゴシ」では平年を下回ったものの、平年並から上回った地点が多く、おおむね平年並である。
- イ 幼穂形成期は、消雪の早いつがる市では平年に比べて早かったが、その他の地点は3月下旬以降の低温と降雪により2～5日遅くなった。
- ウ 病害虫は、「ネバリゴシ」でうどんこ病の発生が見られる。
- エ 一般ほ場では排水不良ほ場で生育が劣るなど、ほ場によるバラツキが見られるほか、葉の黄化などの湿害や雪腐病が散見される。

表－2 小麦の越冬後の生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	18.7	1,083	4/11	24.2	1,088	4/14
	平年差・比	(111%)	(97%)	(遅2日)	(119%)	(108%)	(遅2日)
	平年	16.8	1,117	4/9	20.3	1,009	4/12
	前年	13.3	1,110	3/29	15.5	900	3/30
野菜研究所 (六戸町)	本年	19.9	1,290	4/3	/		
	平年差・比	(91%)	(93%)	(遅5日)			
	平年	21.8	1,389	3/29			
	前年	19.6	1,573	3/28			
つがる市 (木造)	本年	17.5	801	3/15	22.1	898	3/18
	平年差・比	(94%)	(93%)	(早10日)	(102%)	(104%)	(早12日)
	平年	18.6	864	3/25	21.7	867	3/30
	前年	13.8	661	3/28	16.3	466	3/30
十和田市 (相坂)	本年	21.4	1,753	4/7	/		
	平年差・比	(134%)	(145%)	(遅5日)			
	平年	16.0	1,211	4/2			
	前年	14.2	956	3/31			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)が生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去12か年(24年産(積雪のため未調査)を除く)、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去10か年(24年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)と十和田市(相坂)の「ネバリゴシ」が過去17か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去23か年の平均値。

(2) 今後の留意点

- ア 転換畑では、停滞水による湿害を防止するため、明きよを設置するなど排水に努める。
- イ 一穂粒数を確保し、タンパク質含量を高めるために2回目の追肥を実施する。
追肥時期及び量は表－3を参考に、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。
ネバリゴシの追肥の判断基準は、平成19年度指導参考資料の『小麦「ネバリゴシ」のタンパク質含量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる』(青森県庁ホームページで「普及する技術・指導参考資料について」検索)を参照する。
- ウ うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に薬剤散布を行うと効果的である。
ただし、アミスター20フロアブルは出穂後に使用すると、赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例があるため、別の薬剤を使用する。
- エ 赤かび病の適期防除のため薬剤散布の準備をする。

表－3 追肥時期と追肥量

追肥時期	止葉抽出期(減数分裂期)～出穂期 (2回目)
追肥量	窒素成分で 2～4 kg/10a

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア 草丈は、七戸町では平年を上回っており、六戸町及び田子町では平年並、藤崎町では平年を下回っている。葉数は、六戸町では平年を上回っており、七戸町では平年並、藤崎町及び田子町では平年を下回っている。生育は、地域によってバラツキはあるものの、おおむね平年並である。

イ 病害虫は、さび病が散見される。

ウ りん片分化期にはまだ達していないが、今後、気温が平年並に経過すれば、平年並になると予想される。

表－4 にんにくの生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	植付期	4月10日			りん片 分化期 (月日)	備 考
			草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)		
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	10/2	41.3	6.7	13.5	—	透明マルチ
	平年同	10/2	(100%)	(106%)	(102%)	—	
	平年	10/2	41.3	6.3	13.3	4/21	
	前年	10/2	43.0	7.1	13.7	4/18	
藤 崎 町 福 島 (旧常盤村)	本年 (平比)	9/18	15.3	3.4	—	—	無マルチ
	3日早	(76%)	(92%)	(—)	—		
	平年	9/21	20.1	3.7	—	4/29	
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (平比)	9/26	31.1	4.0	—	—	グリーンマルチ
	7日早	(123%)	(98%)	(—)	—		
	平年	10/ 3	25.2	4.1	11.7	4/24	
田 子 町 日ノ沢	本年 (平比)	10/ 7	24.4	3.8	—	—	グリーンマルチ
	1日早	(104%)	(93%)	(—)	—		
	平年	10/ 8	23.4	4.1	—	4/23	
前年	10/ 2	23.3	4.0	—	4/20		

注) ①平年：野菜研究所は平成22～30年の9か年の平均値。

藤崎町は平成9年～30年の22か年の平均値。

七戸町は平成8年～30年（平成25年を除く）の22か年の平均値。

田子町は平成8年～30年の23か年の平均値。

②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）。藤崎町は福地ホワイト（13～15g）。

七戸町は白玉王（9～11g）。田子町は白玉王（10～12g）。

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

(2) 今後の留意点

ア 排水対策

排水が悪いほ場では、明きよを設置するなど排水対策を講じる。

イ マルチの補修

風などでマルチが浮き上がったり、剥がれている箇所は早めに補修する。

ウ 適期追肥の励行（追肥体系の場合）

2回目の追肥は、10a当たり窒素成分で5kgを目安に、りん片分化期等の生育状況を確認しながら適期に行う。

2回目の追肥時期：透明マルチ・・・りん片分化期後10日ごろ

黒マルチ・・・りん片分化期～りん片分化期後10日ごろ

エ 除けつ

1株に複数萌芽した株は、株の分離を確認後、株元の土を掘り、生育の良い方を残すように押さえ、他を引き裂くようにして抜き取る。

ただし、採種ほ場では抜き取りを行わず、そのまま生育させる。

オ 病虫害防除

さび病、春腐病の早期発見、早期防除に努めるとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

2 ながいも

(1) 作業状況

春掘作業は、3月中旬から4月上旬の降雪や降雨の影響により、例年より5日程度遅れている。

(2) 今後の留意点

ア 掘取りは、作業条件の良いほ場から順次進め、芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。

イ トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。

ウ 種いもは、栽培法に合わせて準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。

表－5 ながいも栽培法別の種いもの種類と重さ

栽培法	植付時期	種いもの種類	頂芽	重さ(g)
早植栽培	5月上旬	1年子	有り	35～45※
	4月下旬～5月中旬	1年子	有り	50～100
普通栽培	5月中旬～6月上旬	1、2年子	切除	100～150
	5月下旬～6月上旬	切りいも	切除	120～150

注) 早植栽培の50g未満の頂芽付き小種子は、ウイルスフリー由来のものを使用する。

3 トンネルだいこん、にんじん

(1) 生育状況

は種作業は、消雪時期が早かったため、だいこん、にんじんとも平年より早く始まった。

だいこんの生育は、3月下旬～4月上旬の気温が平年より低く推移したものの、おおむね平年並である。

表－6 春だいこんの生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	は種期	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年 (平比)	3/18 2日早	5.8 (90%)	1.8 (97%)	透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル
	平年	3/20	6.4	1.9	
	前年	3/21	4.4	0.3	

注) ①平年:平成21年～30年の過去10か年の平均値。
②品種:春の星。

表－7 春夏にんじんの生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	は種期	備 考
六戸町 下吉田	本年 (平比)	3/ 5 12日早	透明ポリトンネル
	平年	3/17	
	前年	3/16	

注) ①平年:平成21年～30年の過去10か年の平均値。
②品種:彩誉7。

(2) 今後の留意点

好天時は換気し、生育ステージに合わせた適正な温度管理に努める。

4 トマト、メロン

(1) 生育状況

苗の生育は、平年並で順調である。

(2) 今後の留意点

ア 苗は、定植に向けて徐々に気温を下げて管理し、順化する。

イ 土壌水分が好適な時期に早めにマルチングを行って、地温の確保に努める。

ウ 苗が老化しないように計画的にほ場準備を進める。定植が遅れる場合は、苗が老化しないよう薄めた液肥を与えるなど適正管理に努める。

エ 降霜が予想される時や低温時には、二重被覆や暖房器具等で保温に努める。

◎育苗中や定植間もない農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって、
農薬は適正に使用しましょう。
農薬の飛散を防止しましょう。
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。
市販されている除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので御注意ください。
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
農薬登録情報提供システム
【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎春の農作業安全運動を展開中です(4月1日～5月31日)
例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。
体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。
1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
